

【課題 2】 障害者自立支援機器開発促進 事業 (新SBIR制度に係る事業)

厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部
企画課 自立支援振興室



厚生労働省の募集する課題

【課題2】多様化する障害像を見据えた自立支援機器の開発

【ニーズ元：厚生労働省】

JST、NEDOよりフェーズ1公募

開発対象種目

障害者の真のニーズを捉えながらも汎用性を見据えた製品開発及び、製品の継続的な提供を視野に入れた支援機器の研究開発を対象とする。

- ① 障害児・者の知的及び認知機能を補助し、自立生活を支援する機器
- ② 障害者の就労及び就労に関連する活動（通勤、身支度、在宅勤務等）を支援する機器
- ③ 障害児・者の日常生活関連活動（家事、買い物、外出時の移動・経路案内、金銭管理等）を支援する機器
- ④ 障害児・者の余暇活動（遊び、趣味、スポーツ等）を支援する機器



* 技術はあるが、既存の製品として広く流通していないものが望ましい。機器にはシステム、アプリケーションの開発を含む。

* 医療機器は対象外とする。医療機器に該当するか判断できない場合は、事前に都道府県薬務課へ問い合わせること。

支援機器とは？

支援機器 = Assistive Technology

障害者の生活を支援する

リハビリテーション機器？

日常生活支援用具？

福祉機器・用具？

医療機器？

補装具？



幅広い範囲を包含する機器の総称

支援機器を活用して障害のある人々の新たな可能性を拓くという意味を込めて提案された用語

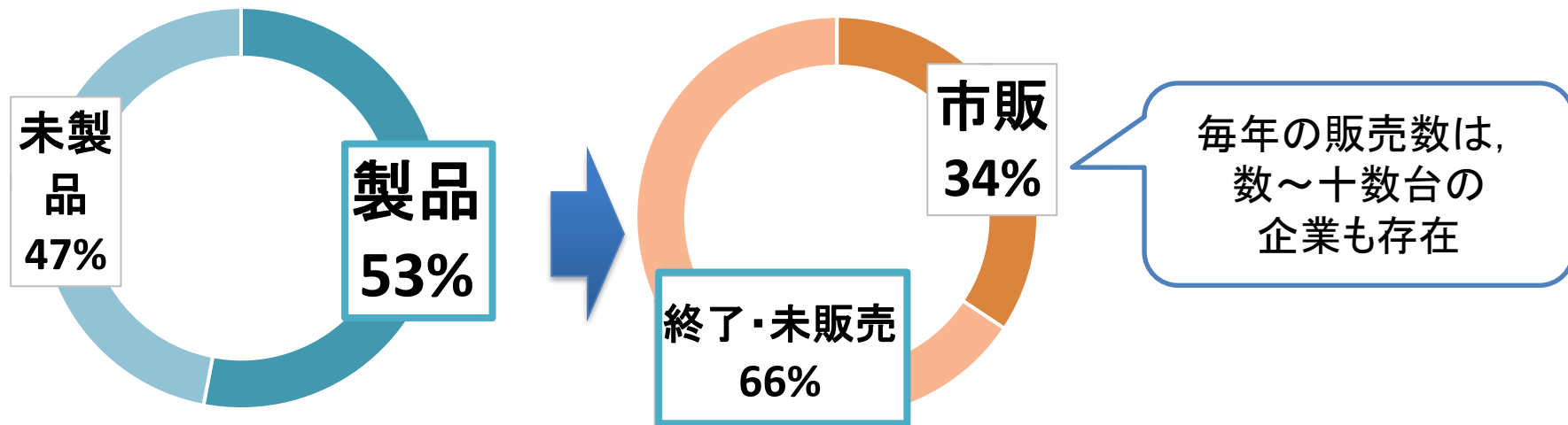


(厚生労働省社会・援護局生活支援技術革新ビジョン勉強会報告,2008年)

製品化の市販化率(H22-R3)

・製品化後の市販化率(99件→34件)

* R3年の実績データ



要因を探ってみると...

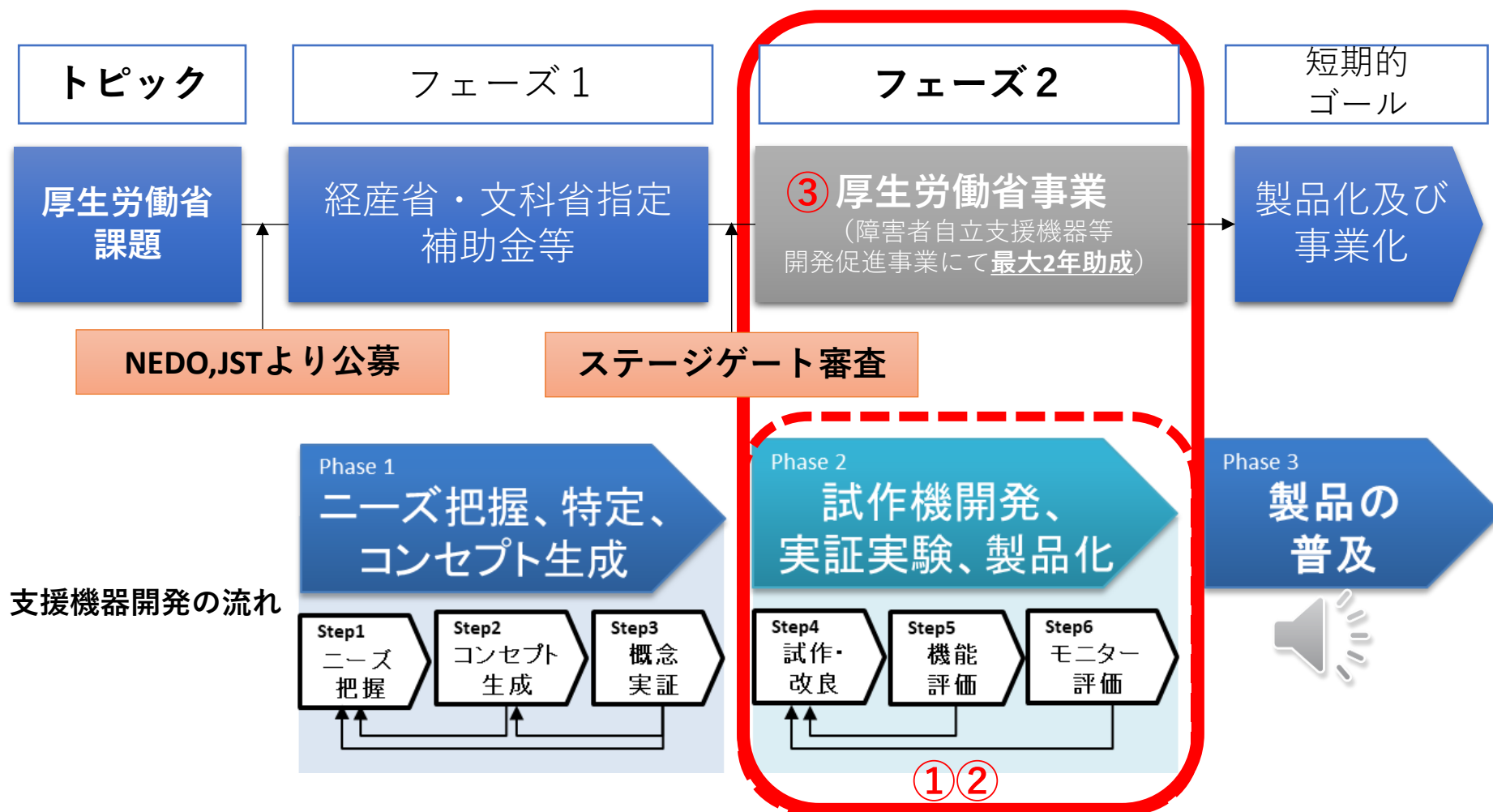
- ・販売終了した。(売れない, 新たな機能・技術が出てきた等)
- ・企業が統合、倒産した

→事業化を見据えた機器開発の必要性

(採択企業後追い調査結果)

・ 指定補助金等に関する指針に基づく事業

③は、新SBIR制度による他省庁連結型事業



採択・製品化事例の紹介①

・視覚障害児・者のための支援機器

触図筆ペン(みつろうペン)

有限会社 安久工機 H22-23年度採択

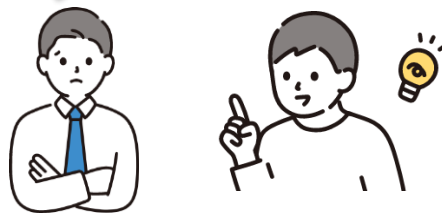


手で見る喜びと感動を伝えたい



大田区新製品コンクール
「特別賞」

視覚障害の子どもが
自由に絵を描けるも
のが欲しい！



描いているときだけ
インクが出る仕組みを
開発！

目の見えない人と見える人を
つなぐコミュニケーションツール

Eye Navi(アイナビ)

株式会社コンピュータサイエンス研究所
H30-R2年度採択

スマートフォンひとつで、道案内と
障害物検出、歩行レコーダー機
能を備えた歩行支援アプリ
(無料ダウンロード)



デジ田甲子園(内閣府)
内閣総理大臣賞

2023年 リリース
1万ダウンロード突破

採択・製品化事例の紹介④

・認知機能の低下を助ける支援機器

yottey(ヨッティイ)

株式会社ソフトデバイス

R4年度 採択

スケジュール管理に不安を感じている
方に今日の日付やその日の予定を
わかりやすく伝えるアプリ



＜開発経緯＞

2011年 国立障害者リハビリテーションセンター研究所
の研究での連携(-2019)

2019年 ソフトデバイス主導でアプリ開発

2022年 当省補助事業にて名古屋大学)と連携して
モニター評価と機器の改良を実施

2023年 リリース

第17回作業療法研究学会
学術大会(2023年)優秀演題賞

時間管理を支援するアプリケーション
「yottey」の開発研究

